Kビジョンに出演
～パレスチナ巡礼②～

二十年ぶりに訪れたパレスチナ、その巡礼記を書き始めた矢先、下松市のケーブルTV局、Kビジョンから「あなたに会いたい」という番組の出演依頼を受けた。

以前なら自分の活動を紹介してもらえると喜んで引き受けたと思う。しかし後期高齢者と呼ばれる年齢、その上、ペースメーカーで動く心臓の一級障害者。表面的には元気に見えるが、精神的ストレスからすぐ疲れる。テレビ取材の緊張感、特に相手のペースで動くと疲れが目立つ。

今回のパレスチナ巡礼も、すべて娘にまかせ、精神的には極めてのんびりとした旅だから足が不自由な妻との三人旅が実現できた。とにかく教会役員もお断りし、番組出演もお断りしようと思っていたが、担当ディレクターの話を聞いて引き受けたのには理由がある。

二十年前にパレスチナを訪れたのは大量のおむつを運ぶためだった。一九九五年、パレスチナで働き始めた娘から「赤ちゃんのおむつかぶれがひどいので日本の布おむつがほしい」という手紙が届いた。それを友人である読売新聞徳山支局の田上記者（当時）が知り、記事にしたところ、西日本各地から大量のおむつが送られて来た。

イスラエルと敵対関係にあるパレスチナにイスラエル経由で救援物資を送ることは難しく、結局、私たち夫婦の手荷物として運んだのである。田上記者も同行し、帰国後、読売新聞に八回シリーズで「NGO最前線・パレスチナにおむつが届いた」を書いた。

田上記者はそれだけでなくKビジョンでも同行番組を制作し、娘の現地での活動などを紹介してくれた。それが国際ソロプチミスト下松の長年の娘への支援につながる。つまりKビジョンにも大変お世話になったのだ。

「あなたに会いたい」の中で、その放送の一部も紹介したいと言われる。そこまで言われ、疲れるからとお断りすることはできない。

先日、プロデューサー、ディレクター、カメラマンの三氏が来宅され、半日がかりで取材を受けた。正直な感想は「やはり疲れた」。途中からインタビューに答える声もかすれる。「昔、アナウンサーだったというのは本当？」と思われるだろう。

「あなたに会いたい」には、いきつけの店で昼食を食べるコーナーがあるという。私はそんな粋な昼食をしていない。週二回、デイサービスに通う妻がいない時は朝食の残りもの。取材日もちょうど妻はデイサービスで不在。

日刊新周南に十年間、毎週書き続けているこの「巡礼の道」の私のホームページ版に、写真のように私がケーキを焼き、お茶を楽しむことを載せている。それを見たディレクター氏は昼食コーナーのかわりにケーキを焼く姿をと言われる。花が好きな妻の庭の草抜きで心が癒やされると言うとそれも取材された。

どんな番組になるのか、今は「まな板の上のこい」の心境。出た以上、見てもらいたい。放送は五月二日から一週間。Kビジョンが見れない方は我が家でお茶を楽しみながら見てもらえれば、望外の喜びである。

二十年前、おむつを手荷物として運ぶ（福岡空港）

人生を楽しむケーキづくり